

木更津市民会館の今後の方向性について

木更津市民会館につきましては、耐震性能が不足すること等を理由に平成27年4月から大ホール、集会棟の利用を停止しているところです。平成28年5月に策定された木更津市公共施設等総合管理計画（29ページ）の文化施設の整備の考え方を踏まえ、今後の方向性を決定しました。

今後の方向性

市民会館大ホール及び集会棟については、建替えや耐震改修は行わず、新たな市民会館を近隣市広域連携により共同建設していくことを検討していきます。

決定の理由

（1）財源的な理由

木更津市公共施設等総合管理計画（20ページ）で示されているように、将来の更新費用の見込みから、今後、全ての公共施設等の建替えや更新等を行っていくことは極めて困難な状況となっています。

（2）施設の老朽化

市民会館大ホール及び集会棟は開館から46年が経過しており、平成12年度に実施した耐震診断結果では、耐震性能が不足することが判明しています。また、最新のホールと比較すると施設の作りが古く、使い勝手も良くありません。

（3）市民の意向

木更津市公共施設等総合管理計画の策定にあたり、市民を対象としたアンケート調査を行った結果、約6割の方が市民会館の機能は今後も必要であると回答します。

一方、公共施設全体の今後の方向性としては、約7割の方が「近隣市と共同で施設を整備・運営すること」を実施すべきと回答しています。

（4）公共施設等総合管理計画における位置付け

公共施設を性質別に整理した結果、木更津市民会館は図書館や公民館、博物館などとともに、広域連携の調査研究を積極的にしていくものと整理しました。

今後の取り組み

広域連携による大規模なホール等の整備とは別に、災害時の対応や文化・芸術振興の観点から、中規模（定員500名前後）の施設については、公共施設の再配置計画の中で早期に検討する施設として位置づけをしていきます。

また、公共施設全般について、広域連携による施設整備を検討するため、近隣市と協議を進めていきます。

問い合わせ先

総務部総務課総務担当 高岡・曾田

0438-23-7098（直通）